# ゼミノート #5

## Categorical Part of Descent Theory, and Stacks

### 七条彰紀

### 2018年12月12日

今回のノートで一貫して用いる記号と記法を定める.

 $\mathbf{C}$  :: site,  $\pi$ :  $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$  :: fibered category を考える<sup>†1</sup>.

記法を定める.  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i : U_i \to U\}_{i \in I} \in \text{Cov}(U)$  について,

$$U_{ij} := U_i \times_U U_j, \quad U_{ijk} := U_i \times_U U_j \times_U U_k \quad (i, j, k \in I)$$

と書くことにする. また、添字 a,b=i or j or k について、fiber product からの射影を

$$\operatorname{pr}_a : U_{ij}( \text{ or } U_{ijk}) \to U_a, \quad \operatorname{pr}_{a,b} : U_{ijk} \to U_{ab}$$

とする. さらに  $\operatorname{pr}_i:U_{ij}\to U_i$  による pullback を  $(-)|_{U_{ij}}$  などと書く.

## 1 The Category of Descent Data

### 1.1 Definition

定義 1.1 (F(U), [2] 4.2.4, [1] Def4.2)

圏 F(U) を次のように定める.

Object.

- $\xi_i \in \mathcal{F}(U_i)$  なる対象の class  $\{\xi_i\}_{i \in I}$  と,
- $\mathcal{F}(U_{ij})$  中の同型  $\sigma_{ij} \colon \xi_j|_{U_{ij}} \to \xi_i|_{U_{ij}}$  の class  $\{\sigma_{ij}\}_{i,j\in I}$

の組  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})$  であって,以下で述べる cocycle condition を満たすもの.このような組を object with descent data と呼ぶ<sup>†2</sup>.

Arrow.

射  $\{\alpha_i\}$ :  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) \to (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\})$  とは, $\mathcal{F}(U_i)$  の射  $\alpha_i$ :  $\xi_i \to \eta_i$  の class であって, $\sigma_{ij}, \tau_{ij}$  と整合的であるもの.すなわち,任意の  $i, j \in I$  について以下の図式が可換であるもの.

$$\begin{array}{c|c} \xi_{j}|_{U_{ij}} \xrightarrow{\alpha_{j}|_{U_{ij}}} \eta_{j}|_{U_{ij}} \\ \sigma_{ij} \downarrow & \downarrow \tau_{ij} \\ \xi_{i}|_{U_{ij}} \xrightarrow{\alpha_{i}|_{U_{ij}}} \eta_{i}|_{U_{ij}} \end{array}$$

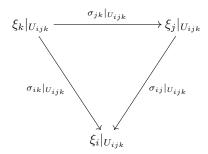
<sup>†1</sup> ほとんど fiber of  $\pi$  しか扱わないので、psuedo-functor  $\mathbf{C} \to \mathbf{Cat}$  をとっても構わない.

 $<sup>\</sup>dagger^2$  同型の class  $\{\sigma_{ij}\}$  が descent data と呼ばれる.

**■cocycle condition** 組  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\})$  が cocycle condition を満たすとは、任意の  $i, j, k \in I$  について以下 が成り立つということ.

$$\sigma_{ik}|_{U_{ijk}} = (\sigma_{ij}|_{U_{ijk}}) \circ (\sigma_{jk}|_{U_{ijk}}).$$

図式でかけば、圏  $\mathcal{F}(U_{ijk})$  における以下の図式が可換であることと同値.



#### 注意 1.2

この定義に於いて fiber products ::  $U_{ij}, U_{ijk}$  を暗黙のうちに選択している。たが、どのように選択しても得られる圏は同型に成る。 $U_{ij}, U_{ijk}$  の選択も込めて  $(\{\xi_i\}, \{\xi_{ij}\}, \{\xi_{ijk}\})$  を F(U) の対象とする定義の仕方も有るが、ここでは述べない。詳細は [1] Remark 4.3 にある。

#### 定義 **1.3** ([1] p.72)

 $\xi \in \mathcal{F}(U), \mathcal{U} = \{\phi_i : U_i \to U\} \in \text{Cov}(U)$  について、 $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の元を以下のデータに対応させる:

- $\xi_i := \phi_i^* \xi \mathcal{O} \text{ class } \{\xi_i\}_{i \in I}.$
- $\xi_i|_{U_{ij}} \geq \xi_j|_{U_{ij}}$  が、いずれも

$$\phi_i \circ \operatorname{pr}_i = \phi_i \circ \operatorname{pr}_i \colon U_{ij} \to U$$

による  $\xi$ の pullback であることから得られる標準的同型の class  $\{\sigma_{ji}\colon \xi_j|_{U_{ij}} \to \xi_i|_{U_{ij}}\}_{i,j}.$ 

このデータをまとめて  $(\{\phi_i^*\xi\}, \text{cano})$  などと書く.この対応を  $\epsilon_{\mathcal{U}}: \mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\mathcal{U})$  と書く. $\mathcal{F}(U)$  の射  $\xi \to \eta$  から, $\phi_i$  に沿った pullback によって  $(\{\phi_i^*\xi\}, \text{cano}) \to (\{\phi_i^*\eta\}, \text{cano})$  が得られるので,対応  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  は関手である.

#### 1.2 Example

#### 例 1.4 ([2], 4.2.1)

一つの射から成る cover ::  $\mathcal{U} = \{f \colon V \to U\}$  について  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  を考えてみる. この圏の対象は,

- 対象  $E \in \mathcal{F}(V)$
- $\mathcal{F}(V \times_U V)$  の中の同型射  $\sigma$ :  $\operatorname{pr}_1^* E \to \operatorname{pr}_2^* E$

の組である.

## 参考文献

[1] Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008).

[2]		Spaces and l Society, 4	(American	Mathematical	Society	Colloquium	Publica-